

---

○議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時55分）

---

◇ 渡 辺 文 彦 君

○議長（藤井 要君） 一般質問を続けます。

通告順位4番、渡辺文彦君。

（6番 渡辺文彦君 登壇）

○6番（渡辺文彦君） 通告に従いまして、壇上より一般質問をさせていただきます。私の今回の質問は3点に及びます。

1つ目は、町が平成27年度に策定しました総合戦略についての評価。また、今後、新しい総合戦略が作られるそうですけれども、それをどのような方で対応していくのか、その辺について伺うものでございます。

2点目は直売所の建設についてでございます。

3点目においては、防災について伺うわけですが、1点目の総合戦略において、町は今後40年を見据えた人口減に対応した政策を作るということで、事業を取り組んできたわけですが、この7月1日現在、6,563人。町の総合計画では2025年に6,761人となっているわけです。もう既に今の時点で25年の目標値を下回っているような状況があります。このような状況の中でもって、この総合戦略が本当に有効に機能してきたのかどうか、問わなくてはならないかと思っております。また、今後新しく作る総合戦略、どこに重点を置いた施策が必要なのかお伺いしたいかと思います。

2点目の直売所なんですけれども、大沢地区・・まあ、中川地区の活性化を目指しましてパーク構想が作成され、その柱の一つとして直売所の建設が取り上げられているわけであります。私は30年度（31年度）の一般（会計）予算の当初予算のときに、直売所の計画が不明確であるということで予算に反対してきたわけですが、その時の議会は予算を承認して、今、直売所の計画、また、パーク構想が進められてきているわけであります。その中で、今いろいろ問題を抱えた中で、新たに町側はワーキンググループを作って直売所の運営を考えていくという姿勢を出しているわけですが、その中でワーキンググループの意見を参考にすることであるならば、ワーキンググループの意見がこの直売所の計画の

中にどれくらい反映されるのか、確認してみたいかと思います。

3点目の防災についてでありますけれども、最近、災害が広域化し、また甚大化しているときに、町民の安心安全を・・安心を守るために防災力を強化することで、町長は各地区の見回りを強化することを仰っております。私はあるとき、ある方・・石部地区の方でしたけれども、石部の地区の方が、私たち地域の方は、大きな津波が来たら、もう諦めているんだとおっしゃったわけです。この言葉を聞いて私は大変ショックを受けました。防災・・私たち議員も町も、町民の安心安全のために、本当に機能しているのかどうかということに対して、非常にショックを受けたわけであります。自分への反省を含め、町の対応は本当に住民にとって望ましいものであるのかどうかを確認したいかと思います。私の壇上からの一般質問はこれにて終わります。

(町長 長嶋精一君 登壇)

○町長（長嶋精一君） 渡辺議員の質問にお答えします。まず、大きな1つ目、松崎町総合戦略についてのうちの1つ、平成27年から平成31年までの5年間、人口減対策に特化した重点的な施策、事業を展開するとして総合戦略を策定したが、その成果及び評価をどのように考えているかということでございます。回答申し上げます。松崎町総合戦略は、人口減少対策として、まち・ひと・しごとに特化した平成27年度から平成31年度までの5年間の重点的な施策・事業を展開し、10項目の重要業績評価指標であるK P Iを設定し、評価検証を行ってまいりました。

総合戦略の事業評価につきましては、行政報告でご説明いたしましたとおり、観光客や移住者の増加など少しずつではありますが成果も現れていますが、町が目標とした人口と現時点での人口推移を見ますと、必ずしも現状の対策が機能しているとは言えない面もあると思います。町としましては、人口減少を抑制するために移住定住対策、子育て支援、桜葉などの産業振興、起業支援や空き家対策などを実施してまいりました。全国的に人口が減少している中、人口の自然増・社会増を図るということは大変厳しいとは思いますが、今後も町として全力をあげて、人口減少抑制のための環境整備に取り組んでまいります。

総合戦略の2つ目でございます。令和2年以降も新たな戦略を策定するようであるが、今までの戦略の反省を踏まえて、どのような取り組みを必要と考えるかというご質問でございます。

回答、申し上げます。まち・ひと・しごと創生に当たり、国では各地方公共団体に対して国

の長期ビジョンや総合戦略を勘案し、地方人口ビジョンとこれを踏まえた5カ年の目標や施策の基本的方向や具体的な施策をまとめた地方版総合戦略の策定を求め、松崎町では平成27年度から令和元年度までの5年間の総合戦略を策定し進めてまいりました。このたび、国から次期総合戦略の方針が示され、本年度松崎町においては令和2年度から令和6年度まで5カ年の総合戦略を策定してまいります。総合戦略の策定に当たっては、まず策定までのプロセスが重要であると考え、産官学金労言で組織する日本で最も美しい村推進委員会での協議はもとより、町内産業、福祉まちづくり団体などへのヒヤリング、アンケート調査、パブリックコメントなど、多くの方が参画し検討してまいりたいと思います。また、施策については、総花的ではなく実現可能な事業について、実施年度や財源、実施体制を勘案しながら優先順位を付けて実施してまいりたいと思います。国の方針を尊重しつつ、松崎町の実情に応じた総合戦略にするとともに達成可能な目標値を設定してまいりたいと考えております。

次に直売所設置について、そのうちの1つ目でございます。直売所の開設をめざし、ワーキンググループが編成されたが、あるメンバー方より何を話し合う会議であるかたずねられた。メンバーの人選は何を根拠に行われたのかというご質問でございます。回答、申し上げます。道の駅整備運営ワーキンググループについては、町だけでなく議会や町民、生産者などの意見を聞きながらオール松崎で道の駅の整備運営を進めていこうということで、15名の方に委員として参画していただき検討しております。ワーキンググループのメンバーについては、各組織の代表者をお願いするという方法は取っておりません。メンバーには、農業や水産、商業関係の現場に精通している方や地元関係者、まちづくり団体で頑張っている方、現在、三聖苑を利用して活動している方、女性や若い人にも入っていただくなど幅広く選考いたしました。

直売所設置についての2つ目の質問でございます。道の駅パーク構想の基本的な部分是不変とするが、ワーキンググループの提案はどこまで反映されるのか。回答いたします。道の駅パーク構想基本計画を策定するに当たっては、平成29年6月に、議会、産業関係、地元関係者、金融機関などで構成する基本計画策定委員会を設置し、約1年かけて協議検討を重ね、まとめたものでございます。町民の皆さんが関わり策定した道の駅パーク構想基本計画を基本として、ワーキンググループは道の駅の整備運営にかかる意見集約の場と考えており、ワーキンググループで提案されたご意見で反映できるものは取り入れ、整備運営に生かしてまいりたいと考えております。

直売所設置についての3つ目のご質問に移ります。今まで、町政懇談会等で直売所の必要性

を十分説明し、町民の方々の理解をいただいていると語ってきたが、このたび、広報まつぎきで町長が直売所の必要性を語るということは、町民の方々には十分な理解が得られていないんじゃないのかという質問でございます。回答いたします。町の重要施策については総合計画概要書に掲載し、全戸配布しておりますし、年度当初の広報まつぎきには、主な事業について掲載するとともに、町政懇談会等の開催などによって町政を理解していただく努力を重ねています。しかし、私は町長就任前から町内をくまなく歩き、特に声なき声に耳を傾けてまいりましたが、町の重要施策や議会での議論について知らないというケースに多く遭遇したため、広報まつぎきの「町長室からこんにちは」には、自分の考えや方針をできるだけ詳しくお伝えしたいと心がけており、8月・9月号の「道の駅 花の三聖苑」についても、理解が得られていないからではなく、事業実施に至った背景、目的、事業効果なども知っていただきたいという観点から掲載をいたしました。私は、広報まつぎきの使命というのは単に出来事の報告ではなく、町長の考えや方針を正しくお伝えし、意見があればお知らせいただくような町長と町民との意思疎通の場として考えております。今後も重要な施策についての自分の考えを掲載していくつもりでございます。

大きな3つ目、防災についてでございます。そのうちの1つ、町長は各地区の危険箇所を洗い出し、防災に努めると言ったが、見回りの成果、また、今後必要とされる対策はどうかということでございます。お答えします。災害に強い町づくりの一環として、昨年、区長さんの協力を得て、防災担当職員と合同で地区回りを行いました。町内35地区を延べ90日かけて行いましたが、中でも道路関係の危険箇所等に対する要望が多く、約70カ所を把握し、修繕等により対応したところでございます。また、消防本部、消防団にも協力をお願いし、住宅密集地での火災を想定した火災防護計画に基づく、消防水利や消防車両の配置を現地にて確認をいたしました。災害対策においては、想定外は許されませんので、あらゆる災害を想定し、今後も区長さんや関係機関と連絡を密にし、避難路や防災資機材の整備、防災意識の高揚に努めてまいります。

以上で、渡辺議員の質問にお答えいたしました。

○6番（渡辺文彦君） 一問一答でお願いいたします。

○議長（藤井 要君） 許可します。

○6番（渡辺文彦君） 通告のとおり、総合戦略の件からお伺いしたいかと思えます。去年もこの時期、この場で総合戦略についてお話をし、町長から強い口調でお前の態度はおかしいとい

う、総合戦略の委員会のときも批判を受けたわけでございますけれども、私はそのときに、美しい村の委員会でもって、総合戦略の評価を下す場において、事前に資料も配られず、また、ほとんど議論もされないまま、これでOKというような委員会のあり方に対して疑問符を呈し大きな声を出してしまったわけですが、そのときにあったのは、こういう状況、今、ほとんど町の人口減に対し歯止めがかかっていない状況があるわけですが、こういう状況を想定できたから、なんとかしなければならないという危機感で発言したわけですが、これに対してある委員の方から、あんな方がいるならば委員会を外してもらいたいという意見がでて僕もがっかりしたわけですが、現実的に今考えて、我々は、国の国策に沿った方向であるとはいえ、やっぱり人口減少を何とかしないといけないということに対して対応しようとしているわけですね。ですからそこに対して、実効性のある政策がやっぱり求められると思うわけですが、それに対して十分な議論がされていないということが非常に僕にとっては不満なわけです。今、こういう計画をいくら作っても、こういうふうに作りましたよ、これで承認してください、あとは何もしてませんか意味がないのかなと思います。そういう意味で、改めてお伺いします。

僕は去年、こんなやり方でいいのかということをしたわけですが、町長、今、今年、この時点において、僕のあのときの発言はやっぱり不適切な表現であったかもしれないけれども、指摘としては間違っていなかったと思うんですがいかがでしょうか。

○町長（長嶋精一君）僕は議員のときに、やっぱり議員のときにこれは出来上がっていたわけです。したがって、こんな総花的なことをやったって駄目だよと当局に申し上げたことがございます。したがって、底辺に流れていることは渡辺議員のおっしゃる通りでございます、このままではいけないなと思います。あの時は、確かに渡辺議員も意識が高揚していて、ああいうふうな表現になったかもしれませんが、冷静に考えますとおっしゃっていることはその通りだと思います。私も、同じ考えでございました。従って、先ほど申し上げましたとおり、これからやる計画については、ただ、国がやれというからやるんじゃなくて、国のやることにまったくノーということでもなくて、押しつけじゃなくて、それを尊重しながらも、じゃあ、我々は合ったことを・・松崎町に合ったことをやっていくという計画にしたいと思っています。それも手を伸ばせば、努力すれば、汗をかけば実現可能というような、そういうふうな計画を作っていきたいなと、そしてそれが、町民の皆さんのためになると私は考えております。以上です。

○6番（渡辺文彦君） 総合戦略は、基本的には、自然減にはなかなか対応できないということで、社会増でもって人口減に対応していきたいという政策がポイントになっていると思うわけですが、その総合戦略を作るに当たって、その人口減を止めるために、何が大切かということで町民にアンケートなりをしたところがでていて、そこには地方に仕事がないことが一番大きな問題じゃないかということがあったわけですね。やっぱりそれは現実的な問題で、仕事がないから子どもらが、みんな人が出ていくんだという話があったわけですが、そういうことに対して、いろいろな対応をもちろんしてきたわけですが、その成果が出ていないというのが現実かと思います。そういう意味で、対策の取り方に対して何がそういう、今の不十分な結果になっているのか、どういうふうに考えるのか、その辺をお伺いしたいのですけれど。

○企画観光課長（高橋良延君） 総合戦略では人口減少対策、これを克服するという形で、1つにはやはり転入の促進、転出の抑制という、いわゆるそこが1つ大きなところが1点、そのために移住定住対策。もう1つはやはり、渡辺議員がおっしゃった通り仕事づくりということです。やはり、町の産業・これを何とかしなければ、そこに人は居つかないというようなことであつたわけで、例えば30年度には、松崎町ではそういった方々を町で仕事ができるという環境作りという中では、起業支援の新たな制度を立ち上げたりとか、あるいは今、桜葉でそういった担い手の育成とか、そういったことにも挑戦しております。そういったことで、ここで仕事ができる環境を何しろ整えることが大事だよというような形で、町としてもそれは具体的な動きで行っているところでありますので、やはり仕事づくりは非常に大事だなということで思っています。

○6番（渡辺文彦君） 具体的な施策として移住者の促進というか、移住の方を増やそうという対応をされてきているということで、起業支援みたいなこと、また創業支援みたいなことでもって、IT関係の方を呼びこむとかってことで「と一ふや」なんかも整備されてきました。また、空き家を利用して移住していただきたいみたいな話もできているわけですが、実績があまりにも弱いというか、なんでそんなに評価が・・・実績が伴ってこないのかというのをやっぱり考えたときに、都会の方にとって松崎が選択肢に入らない要素が多いんじゃないかと僕は思うわけですね。移住者にとって、選択肢・・・一番重要なのは、そこで安心して暮らせるとか・・・そう意味では経済的にも、防災にも、教育にも、医療もすべて含まれると思うんですが、そう意味ではやっぱり遅れているのかなって気がするんですね。同時に松崎ってとこ

ろの知名度が非常に弱いのかなって僕はすごく実感しています。その辺で課長、松崎をどうやって売り込むか、松崎の良さをどうやって売り込むか、松崎の良さはなんなのか、その辺をちょっと伺いたいと思います。

○企画観光課長（高橋良延君） 松崎の良さという、25年に松崎町は日本で最も美しい村ということで、全国63地域になっていますけれども、そのところでは、やはり松崎の持ち味ですね。ここにある持ち味を生かそうという形で3つの資源っていいですかね、それは1つはなまこ壁の建造物であったりとか桜葉、もう1つは石部の棚田ということで、そういった地域資源を生かそうということで町づくり・美しい村の町づくりが始まっているということです、そういった松崎のいいところありますので、そこは最大限に磨き上げて、また更に活用して、町外の方にPRしていくという形では考えております。

○町長（長嶋精一君） 私は、これ前から言っていますけれども、松崎町というのは、歳をとって車の運転ができなくなると買い物にも行けなくなってしまう、病院にも行けなくなってしまうという2つの大きなバリアがあるわけですね。これについて出来ることからメスを入れてきたつもりでございます。生きやすいようにしてきたつもりであります。ただし人口減少、それから人口減少には定住人口の減少、それと交流人口も減少しております。最近3ヶ年間はちょっと上向いていますけれどもね。それにしても減ってきているということ。

それとまた事業所も・個人の事業所も減っているという三重苦のようなことがあるわけですね。従って、個人の事業所が減っているという問題、これは例えば、診療所の問題も個人事業所になります・これも減っている。そうするとですね、車の運転ができなくなると買い物にも行けなくなる、それと病院にも行けなくなる。その病院が無いということになるときっと都会人は来てくれるはずがないと私は思っています。従って、やはり診療所というのはこれから作っていききたいなということでもあります。

一晩寝て起きたらシンデレラ姫になったということはありません。人口減少を食い止めるためには、こういったことをやればいいのかというそういう方策はないと思います。しかしながら、コツコツコツコツできることを・渡辺議員からもいろいろ忠告をいただいておりますので、そういったことを出来ることからやっていって、人口減少の抑制を図ってまいりたいなとこんなふうに思っています。以上です。

○6番（渡辺文彦君） いろいろな人口増に対する取り組みっていうのがあるんだけど、なかなか成果を生むのは難しいと思います。日本全体で人口が減っていて、増えているのは東京だ

けですから、東京の方をまた田舎に引き戻そうと・・・東京に出たくて、行きたくて行った人間を引き戻すっていうのは至難の業だと僕は思っています。そういう意味でね、なかなか地方へ人を引き寄せて人口を増やそうっていうのは無理だというのは、最近しみじみ感じます。だからといって諦めたら町は、どんどんどんどん衰退するわけですね。

そこでもう1つの人口増の対応として、子育て支援ということも多くの方が希望されるわけですが、今の子育て支援の在り方で本当に人口が増えるのかなというのが、正直、僕の最近の疑問符になっています。一番子育てしやすくってということを売りにして、人口を増やしている町もあるんですけど何カ所か。でも、なかなかそれは今の時点においてはいいのかもしれないけれど、あと30年たったら本当にその町が維持できるかどうか正直、疑問符があるんですね僕は。そういう意味でね、僕は今、微力ではあるのかも知れないけれども、町内においても未婚者というのがかなり多くおられます。また、そういう意味で他所から呼んでくる、子供を増やすってことよりも、もっと結婚しやすい環境づくりというんですかね、若い人たちが・・・それはもちろん仕事を含めてなんでしょうけれども、そういう対応がもっとできないのかなって最近、すごく思うわけですが、その辺に対してどのような考え方を持っているのかちょっとお伺いしたいんですけど・・・。

○統括課長（高木和彦君） 私も健康福祉課にいるときにですね、皆さんに結婚していただくことはあったものですから、いろいろ婚活的なことをやった経験は・・・担当した経験がございます。なかなかこれが上手くいなくて今の結果になっているんですけど、今までの話を全部トータルしても、特効薬がないことはご理解いただいているということで、その中で子育ての話が出ましたけれども、例えば今まで、保育園については5時から4時まで保育という形がありましたけれども、今は申請していただければ、朝の7時半から、時間によっては夕方の16時30分まで保育時間を長くして、それだけ長くすると松崎に住んでいても下田に通える、土肥に通える、夕方が遅くなっても5時半まで仕事ができるような環境を作ったりですとか、細かいところから1つずつはやっているんです。そういう中でですね、今回私も・・・前回の総合戦略を見ますと、夢みたいなのがかなりありますけれど、そういうことではなくて、そういうこと1つずつ挙げて、町だけで単独ではできないことたくさんあります。さっきの質問でありましたけれど、縦貫道とか整備促進に積極的に加わって、今の松崎町あれだけの・・・5ヘクタールの土地にですね、縦貫道の協力をしてということで、縦貫道がなるべく早く出来るように協力とかですね、細かいところ1つ1つを積み重ねたうえでやっていくというのが、地味の

ようですけど本来ではないかなというふうに考えています。

○6番（渡辺文彦君） この議論はいくらしてもしきれない、結果が出てこないような非常に難しい問題だってことは僕も重々承知しているわけですけど、いずれにしろ、この前の今まで継続中の総合戦略に800万近くのお金を投資して、委託費をかけて事業を展開してきているわけですね。それで結果を出せないとするとなんか、もったいないなというか、そういう気持ちがあるわけです。だから今後ね、また新しい総合戦略を作るってことに方向性が出ているわけですけど、そこでもってやっぱり自分たちの町はどのくらい・・・今、人口的な面ではおそらく破綻なんですね計画は。じゃあ今後5年間の目標値としてどのくらいが妥当で、それならばどのくらいの町民の満足度を確保できるのか、その辺の大まかなビジョンでいいですけどその辺ありますか。当然もう、来年作らなきゃいけないってことはわかっているのだから新しい・・・ある程度方向性は出さなきゃいけないと思うんですよ僕は。町が今、2060年には2,675人なんて言っているわけですけど、社人研の報告だと2,924人になっているわけですね。もう非常に数字が低くなってきている。それじゃあ3,000人くらいで2060年に行きつくようなそんな計画になるのか。それで本当に、先ほど町長がおっしゃった地域の事業所承継とかが維持できるものかどうか、その辺が僕には見えてこないですけど、行政の方々、いろんな情報を持っているわけだろうから、その辺に対してどんなイメージがあるのか、ちょっと参考までに伺えたらと思うわけですけど。

○企画観光課長（高橋良延君） 今の時点ですとね、5年後の目標の人口という明確な数字は申し上げられませんが、社人研ということで渡辺議員申し上げましたが、20年後の松崎町の人口は社人研で4,249人という数字でございます。ただこれは、あくまで推計でありますので、こうならないように、現在町として、この第1期総合戦略にもいろいろ対策を講じていくというのが、これは考えております。ただ人口は減ったといたしましても、総合計画の町づくりの目標でありますように、町民が住んでいて良かったといえる町民満足度の高い町、これは大変重要なことだと思いますので、人口が減ったとしてもそういった町民が、この町に住んでいて良かったと思える町というのは、最終的なそういった町づくりの目標かなということで考えてございます。

○町長（長嶋精一君） 今、企画観光の課長が申し上げた通りでございまして、最終的にはすべて数字でもって言い表せるものではなくて、この町に生まれて良かったと、住んでいて良かったと、そういう町づくりができればと思います。やはり住民満足度の高い町を目指してです

ね、いろんなことを・・実現可能なことをやっていかなければいけないなというふうに思っています。

○6番（渡辺文彦君） この問題ばかり関わっているわけにはいかないもので、他に行きたいんですけど、とりあえず、また今度の新しい総合戦略が、今回の補正で300万くらい上がっているわけですけど、そのお金、有効に使われるような計画になるよう町民の方々の意見をよく聞いて、それを十分に考慮して対応をお願いしたいと思います。その評価は十分議論をして、ただ町側が評価して、これで納得してくださいではなくて、やっぱり町民の方々の多くの意見を取り入れた評価をしていただきたいと思います。

2点目の直売所の件に移らせていただきます。これも、たまたまですね、このワーキンググループのメンバーの方が僕の顔を見たら、「いいところであったよ、ちょっと聞きたいことがあるんだよ。」って言うから何ですかって言ったら、「私はワーキンググループのメンバーになってくれってすごく強要っていうか・・強く頼まれて受けたわけだけでも、そこに行ってみたら何を議論していいのかわからない。」だとか、「もうレールはできていて、そこで話することはないんだけど、何のための会議なんですか。」と聞かれたわけですよ。僕としてみれば、直売所を町は考えているので、それをどうやって運営したらよいかということに対する提案をいただきたいということで設置したんだと思いますけれど、と説明したわけですけど、なかなかその方もそれでは納得できないところがあって、ワーキンググループを立ち上げる以上は、自分らの意見も反映できる場であってほしいねというような意見が出たわけです。その中でもってこの質問をさせていただくわけですけどね、そもそも直売所が・・町長はパーク構想の中でもって直売所を作って、三聖苑がずっと赤字を出してきたから直売所を作って、それを解消したいんだって話をされるわけですけども、僕も含めて多くの議員の方も、直売所をやってもまた赤字が増えるんじゃないのっていうのが大方の意見だと僕は思っているわけです。そういう多くの町民の声も僕は耳にしているわけです。だからなかなか、直売所を町が思っているように進めていいですよって言えないところがあるわけですけど、問題は直売所がなければ大沢地区は活性化しないのか、じゃあ直売所があればどういうふうな形で大沢地区は活性化していくのか。その辺の方向性っていうのが、なんとなく見えるようできていないのかなと思うわけです。その辺をもっと具体的にさせていただいて、ワーキンググループの方々にも説明して、そこで出てきた意見を取り上げるってことが、僕は本当に大切なことだと思っているわけです。話が長くなって申し訳ないんですけども、そもそもパーク構想自

身を作るときに、町民の意見を取り入れて作ることになっていたわけですが、僕が知る限り、町民の方は、ほとんどそのパーク構想の場に参加していなかったと僕は今までの議会の中で何度か発言してまいりました。そういうところでできたパーク構想であるがために、ここで改めて町民の方々、ワーキンググループの方々に問いかければ、じゃあ、これがいいんじゃないあれがいいんじゃないって意見が出てくるわけです。

だから、パーク構想を作る時点で、町民の方の意見を積極的に取り入れる場があれば、おそらく今の問題は、もっと早い時点でクリアされていたんじゃないかと僕は思っているわけですね。先ほど高柳議員の方からも、パーク構想の話があったわけですが、やっぱり手順的に町民の意見の取り入れ方が、ちょっとまずかったのかなと僕は思っているわけです。一つの、こういう方向性でいきたいんだけど、これでみなさん了解してくださいよっていうような方向性ができちゃって、それに対する意見をなかなか、拾い上げて、それに対する反対なり、それに対する修正意見なりが拾い上げてもらえないのが一番大きな課題だったのかなと僕は思っているわけですね。だから、問題はそこなんです。なんで行政の側が、町民の意見を聞くと言いながら、町側の意見を押し付けるような方向性を出さなきゃならないのか。町民にとってみれば、そういうふうな疑問符になるだと思うんですよ。課長にしてみれば、たたき台がなければ議論できないじゃないですかって話になるのかもしれないけれども、たたき台に対して町民の意見がどれだけ反映されるのか。ちょっと2番目に係るわけですが、1番目と2番目に絡めて結構ですので説明していただければ。

○企画観光課長（高橋良延君） 今、ワーキンググループを6月に立ち上げて議論しているわけですが、その前からいうと、先ほど町長が言いました、29年・・もう3年近く前にですねこの道の駅をどうしていこうかという形で19名の方々に参加してもらって、基本計画を話し合っていて、今の整備計画は出来たものでございます。それを、やはり今度、推進実現していくにあたって、町民の・・そういった現場に精通している方とか、現に三聖苑に携わっている方等々を交えまして、そこに対する整備運営について意見を改めて伺っているという形でございます。

ですから基本はあくまでも、基本計画というのを基本として、ただワーキンググループで出た意見、それは全然全部、否定するわけではございません。当然町として、そういう中で提案とかご意見の中で、取り入れられるものは取り入れて、それで最終的に道の駅はこうなりますという形で意見集約していくという形にしていきたいなというところで考えているところでございます。

○町長（長嶋精一君） 先ほど説明いたしましたけれども、この広報まつぎきの中の「町長室よりこんにちは」ということで、8月号9月号で道の駅直売所について説明しております。それは今、渡辺議員がおっしゃったように、知らない人が多いじゃないかというようなこともあってですね、それでもう、こういうふうにもその1、その2でもって、シリーズでもって説明しています。10月号はまた違う・全然違うことを書きますけれど、また11月号から、わかっていただくまで粘り強く私は、「町長室よりこんにちは」で話をしていきたいなと思います。

それと紙面でもって届けると同時に、私は初心に戻り、また、一人一人の方々にも働きかけて、語りかけていきたいと思います。これをやることによって、必ずさっきの話じゃないですけども、松崎町は再生できますよと・再生の一助になりますよということを働きかけて、汗をかきながらね、説明してまいりたいとこのように考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○6番（渡辺文彦君） このワーキンググループの方々の中にね、一回この話を全部さらにしてやり直すことはできないですかねみたいな話も聞くわけですけど、今の課長の答弁だと、パーク構想の基本があって、その中の部分的な修正くらいしかっていう話だと思うんだけど、これをもし仮にでもね、白紙にしちゃったらどういうことになるのか、その辺ちょっと確認したいんだけど、どうなるのか。この事業を仮にもう一回、ワーキンググループの方々の意見を取り入れるために、パーク構想の基本的な部分を白紙に戻しましょうみたいな議論をもししちゃったらとしたら、どういうことが起きるのか、その辺のところをちょっと確認したいんですけど。

○統括課長（高木和彦君） 道の駅の整備につきましては、去年1年間、いろいろな形で議論しました。その中でですね、1つ、今、1千万円の赤字になっている道の駅、この事業を1年延ばすということは、この赤字をまた1年継続するんだよというような話が出てくるのが1件あります。そういう点でですね、やはり今の赤字状態を直そうとしたときに、それを延ばせばいいと話ではないと、そこはちょっと感じられます。

また、1つの組織の中で、松崎町の方ですね、皆さんいろいろな意見を聞いて、こういうパーク構想を作ってますね、メンバーが変わりました、議会の顔ぶれも変わりました。いろいろ細かい話をしていくとですね、これじゃあ、最初からやり直そうかって話になるかと・・、いろいろな大きい問題があるという、そういう話が出がちってことはわかるんですけども、じゃあ今までこれを作ったですね、委員さんたちですとか町の担当者ですとか、皆様の

思い、そういうことを考えるとですね、そこは、そうならないように私どもも新しいワーキンググループの方にはですね・・鈴木議員も入っていますけれども農業に精通している方、また定住促進なんかでもいろいろ関わっているということもいろいろ聞いていますけれども、そういう方の英知を・・また、違うメンバーで入ってもらって、確かに足りないものですから不足しているところ、直さなければならないところはあるかもしれませんが、そこは皆さんでですね、基本の骨格をそんなに変えないでやるというのは、行政の継続性というんですか、そういう意味でもですね、できればある程度の基本線というのは持っていて、その中でできる範囲で、変えていただくというのが僕らの希望です。

○町長（長嶋精一君） 何回も言っておりますけれども、今現在の道の駅は、先ほど統括から話がありましたように1千万の赤字という、13年間ですから1千万どころではないんですね、累積していますから。だから、このままでいいんですかということから始まってね、道の駅パーク構想が始まったわけではございます。したがってこれを完璧なものに、民さんの英知を集めて完璧なものになってスタートしたらね、何年になるかわかりません。何年にスタートするかわかりません。これだとですね、まったく、なんていうんですか・・単なる議論の集積になってしまいます。我々は町民のために良い町づくりをしなければならないと思っています。そのために、単なる道の駅、その直売所を作るんじゃなくて、そこには農業生産者が集まって、こんな農業をしようよっていう勉強会をやったり、耕作放棄地をいかに少なくするか、あるいは鳥獣被害対策を・・せっかく道の駅、直売所を作ったから、そこで求心力、あるいは外に働きかける遠心力だとかね・・、そういったものを集積しようじゃないかということで、直売所を考えております。

それで、これが、もし延びるようなことであるならば、私は今ここで結論をいうわけではありませんけれども、私は町民の皆さんにね、一人一人でもいいから歩いて、汗をかいて、あなたたちのためになるんですということを3千世帯、また、もう一度歩きたいと思います。以上です。

○6番（渡辺文彦君） 議長、時間延長をお願いします。

○議長（藤井 要君） 5分間、時間延長。

○6番（渡辺文彦君） この議論は、この後、鈴木議員もすると思いますもので、私はこの辺で止めておきたいんですけれど、この計画・・僕は道のパーク構想自身は反対ではないんですね、直売所をつくること自体も反対ではございません。ただ、今までずっと直売所に関して発

言してきたことは、適正な規模で・・本当に収益に見合う規模でやっていただきたいということを申し上げてきたはずです。そういう計画であれば、僕は大きいそれに対する賛成はできるわけですけど、あまりにも収益見込みなんかが過大すぎるがために、やっぱりこれは認められないよということで反対してきたわけですから、やっぱりその辺を考慮して、事業計画をもっと現実的に、皆さん町民の方々が理解できるような方向でもってね調整していただきたいと僕は思うわけです。そして、せっかくワーキンググループの方もいろんな意見を提案してくれるわけですから、なるだけその意見を反映していただいて、より良いパーク構想、直売所になればというふうに僕は思います。今までのパーク構想に関わってきた職員なり町民の方の苦勞もやっぱり報わなくちゃいけないわけですから、ここで白紙という考え方もどうなのかなと僕は思うわけですけど、ただやっぱり、それが皆にとってこれならいけるなっていう方向性がだされないと、なかなか合意が得られないのかなと思います。その辺は十分考慮していただきたいかと思ひます。

時間が無くなりましたので3点目にちょっと移らせていただきたいと思ひます。防災のことについて、たまたま9月1日防災の日でもっていろいろ各地で防災訓練が行われたわけですけど、僕は防災訓練が終わる前ですけど、その後、石部の方のところに伺ひまして、実際、避難地なり避難経路なりを確認したところ、やっぱり、かなり不備があるのかなということは確認しました、僕自身。それに対して区長なりを通して、町の方に要望を出しているんですかと言ったら、それはやっていないみたいな話なんですね。だもんでね、町長は区長あたりを通して地域の見回りをして、強化したいということをおっしゃっているわけですけど、町民の方の中に、もう来たら諦めているんだよっていうような意見が出るとすれば、やっぱり我々も行政も、やっぱり関わるべきかなと思ひます。もし、それを思わないとすれば、町民にとって議会も行政もなんにもやってくれない存在に映ると思ひますね。その辺に対して、どういふ取り組みが必要なのかってことに対して、改めて町長伺ひます。

○町長（長嶋精一君） 石部の方が・・そういう方がおったという非常にちょっと残念ですけど、全てですね完璧にまわり尽くしたということはないと思ひますけれど、言えることはやっぱり各区長さんと協力をしながらね、やっぱり区を回って、くまなく回って、ここは危険だぞということを継続的にやっていくしかないなあと思ひています。これは、継続していきます。

それと、消防団とか消防署とも協力し合いながら、今までやってきたことを更に、そこで終わりっていうことではなくて、完成したということではなくて、完成するなんてことは防災で

はあり得ないものですから、もう一度、気を引き締めてやってまいりたいと思います。以上です。

○統括課長（高木和彦君） さっき小林議員も、そういう防災について心配されていましたが、町の方では新たにですね、地域づくりの推進計画、地震関係の計画を色々考えています。今までの流れからして、津波が来たらどうするのですとか、そういうことが中心でしたけれども、その後どうするというような、その後の町づくりなんかも含めてやろうということで、今、担当の中で素案ができてたような状態ですけど、また、そこには石部地区ですとか、各地区のこともですね、どういうふうにしようかというようなことを入れる形で今後検討していくというふうになると思いますので、ある程度、内容が煮詰まりましたら議員の皆様にご報告したいと思います。

○総務課長（山本稲一君） 今、渡辺議員の方から、諦めているよというようなお話がございましたけれども、地震があつたら必ず津波が来るわけではありません。津波が来ても10mの津波が来るかもしれませんし、津波が1 m 2 mで済むかもしれません。その辺を、今、地震が来たら5分で10mの津波が来るよというような考え方というか、そういう話が先行してしまっていて、地震の後の津波に対する知識が正しく伝わっていないようなところがありますので、そこら辺は防災教育といいますか、地区を回って説明をし、正しく理解してもらえるように努めていきたいと思います。

○6番（渡辺文彦君） 今、総務課長がおっしゃったとおりだと思うわけですよ、僕は。やっぱり町民の方々が、防災に対して、なんか変な誤解とか過大な思い込みをしているってところもあるような気がするんですね。だから、話すことによって理解していただいて、備えるってこともできると思うわけです。そのために、やっぱり町長のおっしゃるような、地域の区長なりとの見回りっていう、地域の方が入った地域との接触というのが必要だと僕は思うわけですよ。そういうところでもってね、やっぱり住民は本当に我々が思っているより地域の方が思っていることはあると思うわけですね。それをうまく拾い上げるような体制作り、それをまた反映して不安を払拭するような方向性を出さなければ、やっぱりこの問題は解決していかない。絶対的対策なんてあり得ないわけですから基本的には。そういう意味では総務課長が言われたように、住民の方に対しての避難のあり方なんかに対しての細かい周知が必要なのかなというふうに僕は感じました。

ついでに1つだけ確認しておきたいんですけども、先ほどの石部地区の避難経路の中にブ

ロック塀が結構あるわけですけど、基本的にブロック塀の耐震に対して町は補助を出すわけですけど、それに対して、やるかやらないかは個人の判断になっているわけですよ。その辺でね、やっぱりここは避難路として重要なんだからということでもって、個人の負担に頼らないで、ある程度、全面的にでも補修をかけるという方向性も必要なのかと思うのだけれども、もちろんその地権者の同意を得ての話なんですけれども、そういう方向性はどうなんですかね、考えていますか。

○総務課長（山本稲一君） ブロック塀の補助金がありまして、昨年は大阪北部地震ですか・・・あったものですから、皆さんがかなり関心が高くなりまして、昨年は14件だったと思いますけれども、自主的にやっていただきました。

個人のもので、町で強制的にということとはできないですけど、現在の制度の中では避難路に当たるところについては、一般のブロック塀の撤去よりも、補助率の方が高く設定されておりますので、そういったところを説明して進めているところでございます。

○6番（渡辺文彦君） もう、時間が無くなりましたので終わりますけれども、今の補助率・・・、空き家になっていないというところもあるわけです。そういう所もあるもので、その辺を含めての対応が、今後必要なのかなと思うもので、その辺も考慮していただけたらと思います。

時間が無くなりましたのでまとめますけれども、やはり、僕、今回・・・、いつも感じるんですけど、行政の方々は一生涯懸命やっているのは分かるんですけど、思いが先行しすぎちゃって町民の気持ちがついて行かないのかなってところを感じるわけです。そこを埋めるのにはやっぱり町民との密なコミュニケーションが必要なのかなと思うんだけど、それを町長が一生涯懸命やっているんだけどやっぱり欠けているのかなと僕は思っています。その辺に対して、十分な対応を今後お願いしたいと思います。これにて、私の一般質問を終わります。

○議長（藤井 要君） 以上で渡辺文彦君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 2時51分）